企画展　クモ展 ～多様な8本脚たちの世界～

期間：2024年7月2日（火）
～ 2025年1月13日（月・祝）
会場：本館　2階 企画展示室

私たちに身近なクモ

クモという生き物は、私たちにとって非常に身近な存在です。一般的には、「糸を使う」、「脚が8本」という特徴がよく知られています。しかし、ネガティブな印象が広く定着しており、アニメや特撮映画では悪役のモチーフになったり、不気味な雰囲気を表現するためにクモの網が使われたりします。アメリカンヒーローになった親愛なる隣人のクモもいますが、大体は、クモはネガティブの象徴と扱われているように思います。しかし、クモをよく観察し、その生活史を知っていくと、我々が抱くクモの印象がほんの表層しかとらえていないことに気づきます。この企画展では、生物としてのクモをより深く知ってもらいたいと思い、様々な切り口でクモを紹介していきます。

クモは昆虫ではない

クモは、いわゆる虫ですが、昆虫ではありません。小学校で、昆虫の体のつくりを学びますが、クモが何かまでは詳しく学ぶ機会はありません。いい機会ですので、ここで解説させてください。

クモも昆虫も、節足動物門というグループに属します。節足動物門は、以下の4つのグループ、六脚亜門、甲殻亜門、多足亜門、鋏角亜門に分けることができます（写真１）。六脚亜門は、昆虫類のことです。甲殻亜門は、エビ・カニの仲間が含まれます。多足亜門には、ムカデ・ヤスデが含まれます。クモは、最後の鋏角（きょうかく）亜門に属します。鋏角とあるように、昆虫が触角を持つ部分に、ハサミ状の鋏角というものを持つことが特徴です。鋏角亜門に含まれるのは、ウミグモの仲間、カブトガニの仲間、サソリやダニといった生物です。これらは全て、触角ではなく、鋏角を持ちます。カブトガニは、甲殻類と思われがちですが、紛れもなく鋏角類です（写真2）。鋏角亜門は、先述したサソリ目（もく）やダニ目などの目というカテゴリに細分化されますが、そのひとつにクモ目というグループがあります。このクモ目が、私たちが認識するクモのことです。一方、昆虫は、節足動物門の六脚亜門全体を指しています。

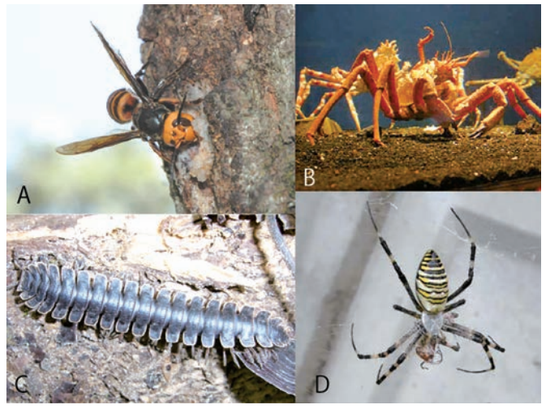

写真１　節足動物門
A：六脚亜門　B： 甲殻亜門　C：多足亜門　D：鋏角亜門

クモの多様性

地球上には何種類のクモが生息しているのでしょうか。2024年5月時点で、52000種以上のクモが世界から記録されています。日本には、約1600種のクモが生息しています。

先述したように、クモは、節足動物門鋏角亜門のクモ目のことを指しますが、クモ目は、さらに135科のグループに分類されています。中でも、多くの種数を抱えているのが、ハエトリグモ科とサラグモ科です。それぞれ、6671種、4847種と、多様に種分化しています。ハエトリグモ科は、眼が非常によく発達したグループで、車のヘッドライトのような眼が特徴的です。視覚で獲物を捉え、飛びかかって捕食します。世界の熱帯地域が多様性の中心で、クモ目で最も多様化したグループです（写真3）。サラグモ科は微小なクモで、様々な空間に網を張る造網性のクモです。主に、温帯～冷温帯で多様化したグループです（写真4）。今回の企画展では、両グループの多様性に焦点を当てる予定です。

写真２　カブトガニの1種
甲殻類ではなく、鋏角類の仲間です

クモの糸

クモといえば、やはり「糸」と「クモの巣」ではないでしょうか。クモの「巣」と表現されることが多いですが、住居よりむしろ、餌を捕らえる「網」という表現の方がより適切です。この網の使い方は、実に様々です。多くの方がイメージする円網だけでなく、シート状の網や立体的な構造を持った網、さらには、袋状に編み込んだような網から、1本の糸だけという極端なものまで非常に多様です。また、先に紹介したように、網を使わないハエトリグモ類のようなクモもたくさんいます。企画展では、網の標本も多数展示する予定です。

今回の企画展は、以上のテーマに加えて、クモに近縁なウミサソリやウミグモなども展示します。また、アリや鳥のフンへの擬態など、様々な生態も紹介したいと考えています。ぜひ、企画展を通して、クモへの理解を深めてもらえたらと考えています。

山﨑　健史（系統分類研究グループ）

写真３　多様なハエトリグモ科
東南アジアには、カラフルなハエトリグモが多数生息しています

写真４　多様なサラグモ科
一見地味なクモですが、全て種同定が完了しておらず、未記載種が含まれる可能性もあります